

おかげ
さまで

日之影新聞

第3号

竹細工、
かるい愛。

かるいは日之影の宝だ。
形も使い方も様々あるこの地の種類豊富な竹細工のなかでも、かるい、と呼ばれる背負いかゴの存在は特別。藤原誠さん（日之影町竹工芸保存会会長、宮崎県伝統工芸士）も言う。「竹細工の盛んな町は多いが、かるいはここだけにしかないもの」であると。急峻な山々の斜面に集落を作り畑や田んぼを拓いて、斜面を歩き斜面に働いてきたこの地の人たちが使うのにこそ便利な道具。収穫物や運搬物を入れやすいよう間口は広く、

背中にぴったりとフィットし、重いものまで軽々運べる。ここ以外のどこにも存在しない、ここだけが生まれなかつた唯一無二のかゴ。今この瞬間にもこの地にはこの道具を必要とする人がいて、大切に大切に使い続けている人がいる。他の何物にも代えがたい存在。だから藤原さんのものには今でも町の人たちから（そしてなぜか都会からも頻繁に）かるいの注文が寄せられる。みんな、藤原さんが作ってくれるのを待ちわびている。それが宝でなくて、一体なんだろう？

ここでしたか
生まれえないもの。



日之影町竹工芸保存会会長・藤原誠さんの手のなかで竹ひごがつくられてゆく。

これからも 継がれゆくべきもの。

かるいは日之影の宝だ。
なぜなら、この土地で育まれた手仕事の技によって生み出されたものだから。それはかるいだけに限らず、この地で作られてきたあらゆる種類の竹細工に当てはまる。日向（ひゆうが）と呼ばれ歴史を積みあげてきたこの地の先人たちが遠い昔から身近な山の竹を材料として自らの手と僅かな道具だけで編みあげてきた技術と知恵の結晶。シュツと直立する硬質な1本の竹から、しなやかで優しい風合いを作り出す魔法。その技が一朝一夕にのみだされたはずもなく、脈々と小さな知恵をつなぎあわせてきた結果に違いない。名もなき農家のおじさんの手によるものにせよ、「現代の名工」という称号まで与えられた日之影竹細工の名人・廣島一夫（1915・2013）さんや、同じく日之影のかるいづくりの名人・飯干五男（1928・2017）さんの手によるものにせよ、日之影のひとの住処に必ずあった竹細工のひとつが、この地の伝承の手仕事の技法で生みだされている。藤原さんもまた「日之影の人間としてこれこそ受け継ぐべき技だ」と感じて60歳近くにもなつてから一念発起し竹細工の技を廣島さんや飯干さんから学んだ。現在81歳。習得した技を若い人に伝えたいと願っている。

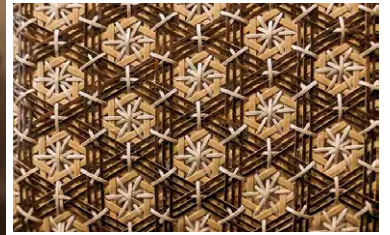
かるいは日之影の宝だ。
藤原さんの手仕事を、藤原さんの仕事場で、間近で見せてもらった。竹割包丁を握る藤原さんの手で、青々とした日之影産の真竹がパカーンとまっぶたつに割られさらにまた割られていくうちに、ついでさつきまで一本の竹であったそれはみるみる幾本もの細い竹ひごへと姿を変えていった。さらに細く細く、竹ひごの幅が均等に揃えられていく様は美しかった。竹細工職人は自ら山に入り竹を狩る。日之影に育つ真竹も孟宗竹もその品質は見事なものだと言われる。竹が裂けていくたびにシュツシュツ

山の恵みから 創造されたもの。



上：同じ太さの竹ひごを組み始める、まさに始まりのころ。
下：藤原さんが「手土産」と目の前で編んでくれた一輪挿し。

と気もちの良い音がリズムよく仕事場に響いた。かるいは六目編みという編み方を基本としながらも、縦に縦にと変則的に編み上げられていく。他の竹細工の多くが横に横に編み上げられているのに比して、ずいぶんと独特な網目をなす。いい竹細工づくりには、いい竹が不可欠だ。いい竹に出会い、いい竹を切つてはじめて、いい竹カゴづくりの準備が整う。それがスタート地点。この地は、素晴らしい竹細工、素晴らしい竹文化が生まれることになんらの不思議もない、豊かな土壌そのものなのだ。



左：藤原さんの手による竹細工たち。なかでもかるいは強い存在感を放つ。／右上：藤原さんの仕事場からの景色。／右中：これは藤原さんオリジナルの編み方。試行錯誤すること工夫することが大好きな人だ。／右下：藤原さん作・竹細工の人形。水の入ったやかんを持ちかるいを背負って畑へ行く、昔の日の影の人の姿だ。

人の心を魅了するもの。

かるいは、そして世界の宝だ。

民藝運動の祖であり日本を代表する思想家・柳宗悦の著作『手仕事の日本』にこう記されている。

「日向の高千穂地方に『かるひ』と称する竹籠があります。山に行く時よくこれを背負います。『かるひ』とは方言で担う意の由であります。この背負籠の作り方などは、全く竹の性質をよく活かしたもので(中略)『かるひ』の如きは誰も注意しませんが、九州で出来る竹細工としては第一流の列に入るのであります。」※

あたりまえのようにその土地にある、誰も注意して眺めることもなかった手仕事の道具の造形。そこに

宿る仕事の歎びと創造力。なんという美しさだろうか。時代を超え場所を超え、その美しさは人の心を打つ。1988年には日の影の竹細工たちは、海の内こう、ワシントンDCにあるスミソニアン協会国立自然史博物館に収蔵されている。

宮崎県の東北の急峻な山間地のまち日の影。ここでもしか生まれなかった道具であるはずの竹細工の美しさ、ここでの生活に寄り添ってつくられた暖かく平穏なデザインが、世界中の人の心をとらえて離さない。それが大切な宝だということに、あなたはそろそろちゃんと気づいてくれただろうか？

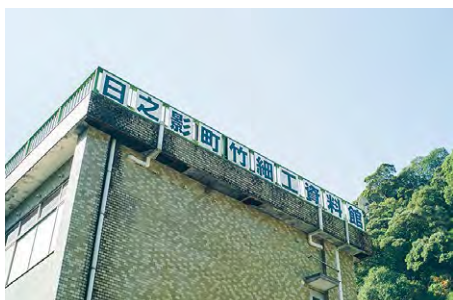
※『手仕事の日本』柳宗悦著 岩波文庫 1960年

インフォメーション

「日の影町竹細工資料館」

「現代の名工」広島一夫氏や、かるいづくりの名人・飯干五男氏などを始めとする、日の影町の竹細工職人たちが製作した竹工芸品を一堂に展示した町の資料館。展示点数は50種163点にのぼる。今ではあまり見かけることもないような道具も多く展示されており、日の影に生まれ様々な用途に使用されてきたこれらの竹細工たちが日本の民具の貴重な資料であることがわかるとともに、実用のために作られてきたこれらの竹細工に宿るその芸術性と美しさに感嘆せざるを得ない。この町の竹から生まれた手仕事の見事さに惚れ惚れすること間違いなし。「入館者がいるときのみ開館」ということなので、入館希望者はあらかじめ確認の連絡を入れていただくことをおすすめします。

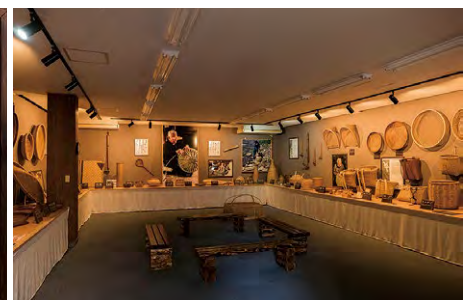
開館日時：年中無休(ただし、12月31日から1月4日を除く) 午前8時30分～午後5時 ※入館者がある場合のみ開館
※入館無料 入館申込先：日の影町観光協会
電話：(0982)78-1021



日の影に来たらぜひ訪れたい場所。



資料館に飾られた写真の一つ。 広島さんの仕事を興味深く眺める海外の人たち。



世界の宝である日の影の竹細工たちが集結。

活動報告

地域おこし協力隊が行く!

みなさま、こんにちは。2017年の8月から地域おこし協力隊として活動している木田伸代です。冬を迎え、寒さが苦手な私ですが、寒さをこらえながら日之影の生活を満喫しております。

さて、最近の私の活動の紹介をしますと、「世界農業遺産」の“高千穂郷・椎葉山地域”をまわるインバウンド・モニターツアーが行われました(インバウンドとは、外国人が訪れてくる旅行のことです)。ツアーには、タイ、チェコ共和国、アメリカから参加者が日之影に集い、そのおもてなしとして、煮しめや椎茸南蛮、ヤマメの素揚げや高千穂牛のローストビーフなどのランチを食べていただいたり、竹細工、森林セラピーを体験していただきました。

英語での対応となり、なかなか思い通りに伝わらない面もありましたが、食事はほぼ完食で、紅葉の美しさや日之影川の水の綺麗さを見ていただいたり、みなさんに喜んでいただき、大変うれしかったです。

今後も日之影でしか味わえないおもてなしで、みなさんを迎えたいと思っています。



お料理 あさだや 朝ごはん

おはよう、おはようございます。よく眠れた?、ええおかげさまでぐっすり、それはよかったですわ、ええとつても、いまお味噌汁もつてくるから座って待って。みたいな挨拶(にもう少し方言が加わる)をゆっくり交わしあつて迎える朝のなんという愛おしさよ。日之影あさだや旅館のある日の食卓は、焼き魚、ごましらす納豆、お漬物、お煮しめ、海苔、卵、たけのこ寿司、日之影産和栗の渋皮煮という素晴らしい献立。でも本当はそれ以上に、僕らの朝を優しく包みこんでくれるあさだやのお母さんの柔らかい笑顔がいつもあふれることがとにかく嬉しい。いつも本当に、たまらない。

あさだや旅館
宮崎県西臼杵郡日之影町岩井川
3381-10
17時~(不定休) ※要予約
09821871255-1

使える かなこの 日之影方言教室

「病院窓口での小話」



講師：日之影町役場 甲斐賀奈子

どんぐらい前の話じゃったとかい。ま 私 そりゃ、折れちよらにやいいがだ私が、わけかった頃の話よ。病院ね。寒なつたき、ぼちぼちせんと窓口で、受付ん事務をしようとした頃、Aさんとの会話よ。

私 ま。えらい久しいが、元気にしちゃったの? 今日はどうなげしたとね? 風邪でん引いたとね?

Aさん まこ、久しいが。今日は痛くてこが出来たき、来てみたつよ。

昨日、背戸山でこけち、どっこそつこ打ったもんじやき。年取ると、がんなねが、えくせんこつなつて、まこ、情けねわ。

私 そうね、暮れも近こなつたが、風邪やら引かつしやんなね。

Aさん おおきに。また会おやね。

こんげな会話で、私の日之影弁は完成してつたよ。

私 は一つもわりこたねとよ。わりた、枝んじよよ。

Aさん わたしや、大体丈夫なとよ。幹は一つもわりこたねとよ。わりた、枝んじよよ。

私 そうね、暮れも近こなつたが、風邪やら引かつしやんなね。

Aさん おおきに。また会おやね。

こんげな会話で、私の日之影弁は完成してつたよ。

〈詠〉
どの位前の話だったかな。まだ私が、若かった頃の話です。病院の窓口で、受付の事務をしていた頃の、Aさんとの会話です。

私 こんにちは。お久しぶりです。元気にされてましたか? 今日はどうなげされましたか? 風邪をひかれたのですか?

Aさん 本当に、お久しぶりです。今日は痛いところがあったので、来てみました。昨日、裏山で転んで色んなところを打ってしまった。年をとると、自分の思う様に体が動かないので、本当に情けないです。

私 それは、骨が折れていなければ良いですね。寒くなつたので、ゆっくり動かないと体に痛みが出ますよ。他の病気は大丈夫ですか?

Aさん 私は、大体、体は丈夫なのですよ。内臓に悪いところはなないです。ただ、手足だけが弱つてきました。

私 そうですか。年の瀬も近くなりましたが、風邪などひかないようにして下さいね。

Aさん ありがとございます。また会いましょう。

この様な会話で、私の日之影弁は完成していきました。

今月のおかげさま



おかげさまで、成人となりました。

私は、今年度の四月から日之影町役場に就職(入庁)しました。保健センターの障がい福祉係に配属され、地元である日之影の福祉のために日々の仕事に精進しています。成人となった今、失敗を恐れずに果敢に挑戦していくことを目標として、これからの社会人生活を過ごしていきたいと思います。

じゅんぺい(20さい)



おかげさまで、日之影。

発行：日之影町〒88210402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字岩井川3398番地1 / ☎0982187130000
(代表)企画：株式会社オズマビジュアル編集：菅原良美(雑形編集部)アートディレクション&写真：小坂橋基希(akaoni)
/ デザイン：難波知子(akaoni) / 取材・文：空豆みきお(akaoni) / 禁：無断転載 ©hinagata. All Rights Reserved.